カナダの森林と樹木

― 針葉樹(1)―

北海道大学農学部　深沢和三

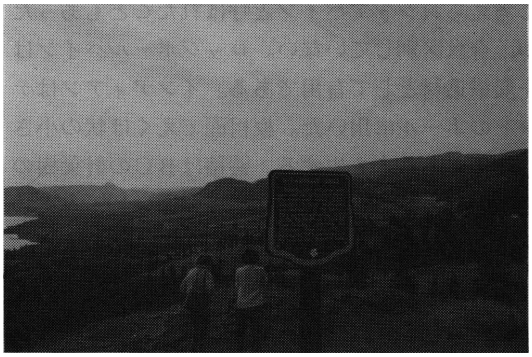
前回までの広葉樹に変わって，今回からカナダの樹木の大部分を占める針葉樹について紹介していただく。その 1回目は樹名に冠せられた地名から容易に見分けられるマツ属，蓄積量などから用材としては多くを望めないカラマツ，ピアノの響板に重宝されているトウヒ属の樹木について述べられる。

用材の王様……

マツ：北米には35種のマツがあり，カナダにはそのうち 9種が自生している。庭園樹を除き，マツの自生範囲はかなりはっきりしているため，マツの見分けより土地の分布から名前を考えた方が早い。五葉松をソフトパインまたはホワイトパインと呼び，二～三葉松をハードパインと呼んでいる。これは材の硬軟から来ている。

ホワイトパインには**イースタンホワイトパイン**（ストローブマツ）と**ウェスタンホワイトパイン**（モンチコラマツ）の 2種があるが，材としては全く区別されない。前者は五大湖ローレンス地帯の代表的なマツであり，後者は沿岸及びコロンビア地帯に限定される。材はマツのなかで最も有用である。木理が粗くなく，収縮性能がよく加工性にすぐれているため用途が広い。モントリオールにカソリック系のノートルダムという豪華な教会がある。多くの聖者の木彫があり，ホワイトパインと説明していた。なかなかよいものである。ケベック州にはケベック人形と言う一刀彫が有名であり，土産物屋の話ではこれもホワイトパインと言っていたが，私の鑑定ではバターナッツの材らしい。

ハードパインの三葉では，**ポンデローサパイン**（イエローパイン，ポンデローサマツ）と**ピッチパイン**（リギダマツ）がある。ポンデローサパインはＢＣの山岳地帯南部の樹種の代表的なものであり，乾燥地帯にジグザグパズル状で黒くふちどりされた比較的大きなりん片をもつ樹皮で，まばらに立っている景観は，私にとって印象的なものであった。乾燥地に強くアリゾナ，メキシコまで分布している。ジェフリーパイン（カナダには自生しないがオレゴン南部からシェラネバダの比較的高いところに生育する）とよく似ており，材では区別されない。ピッチパインはアメリカのペンシルベニアを故郷とするもので，カナダでは普通のものではない。アメリカ東南部にはロブロリイパイン（テーダマツ），ロングリーフパイン（ダイオウショウ），ショートリーフパイン（エキナータマツ），スラッシュパイン（エリオーソテイマツ），ポンドパイン（セロテナマツ）などの三葉松があり，ピッチパインとあわせてサザーンパイ



BC州乾燥地のポンデローサパイン
（カムループス）

ンと総称され材のうえでは区分されない。

二葉のマツでカナダで重要なのはレッドパイン，ジャックパイン及びロッジポールパインの 3種である。**レッドパイン**（レジノーサマツ）はカナダのアカマツであり，五大湖ローレンス地帯の樹種である。ホワイトパインよりも土地をえらばず，また病虫害にも強いので広く植林されている。材は重く硬いので構築材によく，辺材が広くて防腐剤の注入がよいことからポール，杭材に用いられる。植林されているものを多く見たが，クローネは小さく技下も高い。ただしスコッツパイン（ヨーロッパアカマツ）も多く植えられて居り，葉が短いことで区分される。

ジャックパイン（バンクスマツ）は一番北に生育しているマツで，北方地帯で純林をなすかまたはブラックスプルースと混交している。ロッジポールパインとの境界では交雑種を作っている。非常に土地の悪い所まで生育するので，カナダに入植した人達はジャックパインを悪魔の樹と呼んだ。この木が生えている所に作物が育たなかったからであろう。

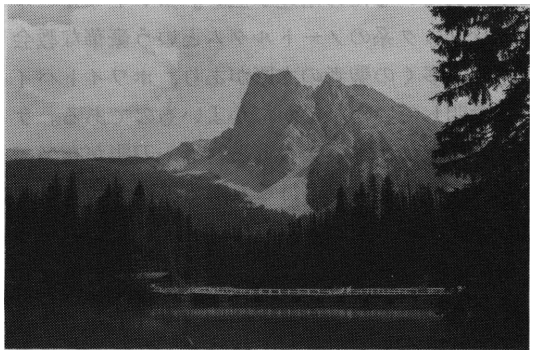
ロッジポールパイン（コントルタマツ）をカナディアンロッキーで初めて見たときには驚かされた。通直な樹幹で技下も高く，樹高も30mぐらいまで伸び，純林をなしていて，見事な林である。バスの運転手兼ガイドの説明もひとしお熱が入っていた。この樹はＢＣの沿岸地帯にも生育するが，面白いことに低地では樹高が低く，多くは湾曲して用材としては全く使いものにならない。違う品種として考えられショアパインと呼ばれたこともあったが，今は区別していない。ロッジポールパインは一般構造材として有用である。インディアンはテントのポールに用いた。板目面でえくぼ状の小さい凹みのある杢を生ずる。蓄積はＢＣの針葉樹の約14%（ 4番目）であるが総生産量は19%を占める。ただし輸出はわずか2．6%である。

用材として多くを望めない……

カラマツ；カナダにカラマツは 3種ある。 2種が西部， 1種が東部にかけて広く分布する。東部のものを**タマラック**（イースタンラーチ，ラリシナカラマツ）と呼ぶ。北方地帯の寒いところまで生育し，純林にはならず湿った開放地とくに湖沼のそばによく育つ。あまり大きくならないので製材にならず,粗構造材として用いる。**ウェスタンラーチ**（オクシデントカラマツ）はカナダではコロンビア地帯に限定され，むしろ乾いた土地に生育する。非常に大きくなるので用材として重要だが，蓄積はそう多くない。もう 1種の**アルパインラーチ**（リアリーカラマツ）は亜高山地帯のもので，高山の地すべり防止樹種として使われている。

年輪幅が整っている……

トウヒ属： 5種のスプルースが見られるが，交雑もかなり多いと言う。**ホワイトスプルース**（グラウカトウヒ）と**ブラックスプルース**（マリアナトウヒ）が北方地帯の代表的な樹種であり，ユーコンから東のニューファンドランドまで広く分布する。両者の違いがよく問題になるが，ホワイトスプルースの方がどちらかと言うとどこにでも見られ，かつ樹形も大きくなるので有用であると書かれている。ブラックスプルースは小型で湖沼のそばの湿地に多い。またリスが球果をとり，そのあと枝の生長が遅いことから先端部のクローネだけが残り技の小ないこん棒状の樹型を呈することが多いという。私は何年か前，アラスカのアンカレッジ付近の森林を見た時，枝の少ないこのような特異な型の樹を大分見た。いま思い返すとこのブラックスプルースだったのであろう。

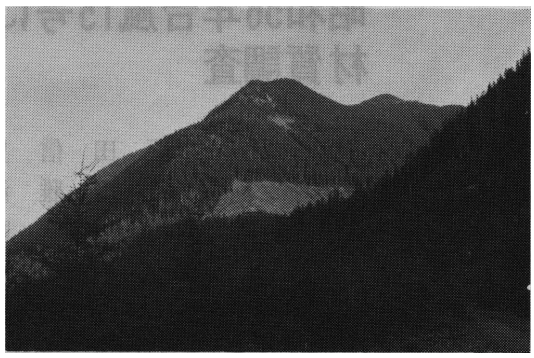


カナディアンロッキー
山と湖と森林

レッドスプルース（ルーベンストウヒ）はアカディアン地帯の固有樹種である。ノバスコシャの大西洋岸及び河川，湖沼のそばに生育していると言う。ただしホワイトスプルースやブラックスプルースも入っているので，同じように湿地を好むブラックスプルースと見分けがつかない。

エンゲルマンスプルース（エンゲルマントウヒ）はロッキー山脈の樹である。ロッキーの針葉樹は，前記のロッジポールパインと後述のアルパインファーの 3種で成立されているとみてよい。どちらかと言うとエンゲルマンスプルースは湖沼，渓流のそばの深い土壌の所に多く，公園を散策するときはより馴染みになる。観光客が，運転手によくこの樹の名前を聞く。ちなみにロッキーのバス運転手は毎日違った人だったが，運転よりもガイドが本職であるとよく自己紹介をしていた。暗記をしているのかもしれないが，運転しながらよくしゃべり，また博識であるのに驚かされる。樹木と動物の話が主であるが，質問でわからないときには本を調べていた。職業意識が強いのであろう。

残る 1つが**シトカスプルース**（シトカトウヒ）である。これは南アラスカから北カリフォルニヤまで，わずか80キロメートルの幅で海岸に沿って生育している典型的な沿岸地帯の樹種である。この地方の冬暖かく雨量の多い温和な気候と密接な関連があり，生長もよく，しかもそれが 3～400年の樹令（樹高 5～60m，胸高直径 5～6 m）まで持続する。筆者は1979年に東南アラスカのシトカ地方でこの樹を 1本伐採し，生長を調べた。北方林業誌の32巻 9号に載せてあるので御一読願いたい。ピアノ響板はシトカスプルースが最も多く使われている。その最大原因は，色がよくしかも年輪幅が樹心から外側まで揃っている。また，大径で無欠点截面が広くとれることによると思う。音響的性質の良否はトウヒの各樹種間で大きな差はない。



沿岸地帯の森林と伐採，更新地
（バンクーバ郊外）

（以下次号につづく）